

# 「幻のサメ」骨格標本完成

昨年5月に定置網に入り、海底に沈んでいるメガマウスザメ―館山市洲崎沖で



鴨川シーワールド（鴨川市）は二十日、雌のメガマウスザメ（体長五・四尺、体重約一・二ト）の全身骨格標本が完成し、十二月七日から常設展示すると公表した。シーワールドによると、メガマウスザメの全身骨格標本の製作は世界初と

## シーワールドでメガマウスザメ 7日から世界で初展示



今年2月に解剖されたメガマウスザメ＝鴨川市で（いずれも鴨川シーワールド提供）

いう。シーワールドによると、メガマウスザメは、最大で全長約七尺に及ぶ巨大なサメ。捕獲例は世界で百三十例、日本では二十三例しかなく、詳しい生態がわかっていないため「幻のサ

メ」とされる。

標本にしたのは、館山市洲崎沖で昨年五月に定置網に入っているのが見つかり、保護する前に死んだ個体。シーワールドでは希少性から調査研究に役立てようと、個体を引き取り、今年二月に北海道大名誉教授の仲谷一宏さんが解剖。仲谷さんの監修で「吉田生物研究所」（京都市）が標本化に取り組んできた。

このメガマウスザメは骨が水分を含んだ軟骨のため、標本化が難しかったが、吉田生物研究所は、軟骨内の水分をワックスに置き換える特殊な加工を施し、標本化に成功したという。

十二月八日午後零時半から、仲谷さんの講演会のほか、完成した全身骨格標本に触れることができるイベントも実施する。問い合わせは、鴨川シーワールド＝電04（7093）4803＝へ。（山口登史）